

## 活動報告

### 韓国のツバメフォーラムに参加しました

神山 和夫

5月11日に韓国の慶尚南道にある昌原市でツバメについての集会があり、日本で行われているツバメの市民調査について発表をさせていただきました。フォーラムの主催は、慶尚南道で環境教育をしている小学校の先生たちのグループと慶尚南道ラムサール環境財団です。昌原市は2008年にラムサール条約のCOP10が開かれて、水田決議の行われた場所でもあります。



図1. 韓国の慶尚南道。

### 韓国の先生たちの訪日

今回のフォーラムに先立って、昨年8月に慶尚南道の先生たち4名がバードリサーチの事務所に訪ねて来られました。小学校の生徒たちとツバメの巣を調べていて、日本の市民調査や小学校での観察活動を視察されたいということでした。



図2. ツバメ学習教材。

観察教材を作るのに、バードリサーチのツバメかんさつ全国ネットワークのホームページが参考になったそうで、海外でも役立ててもらえているとは、とてもうれしいことです。その後、先生たちは5月の愛鳥週間に全小学校でツバメ調査をしている石川県を訪ねて、慶尚南道でも同様の調査をしたいというアイデアを持たれたということでした。

### 韓国のツバメ事情

そうして開かれたのが、今回の慶尚南道のツバメ総調査フォーラムです。私と石川県のツバメ調査の担当者の下沢まさみさんが発表したのですが、会場からはツバメの生態について熱心な質問が続きました。

フォーラム終了後には、近くの商店街でツバメの観察会が行われました。この場所は日本の商店街とよく似ていて、店舗用テントの内側というよく巣を架ける場所に、いくつも巣が見つかりました。フン受けを付けている商店もあり、日本と同じようにツバメが大切にされているようでした。韓国にもツバメが巣を作ると縁起がいいという言い伝



図3. 昌原市の商店街でのツバメ観察。

えがあるようで、さらに中国でも同様にツバメは吉兆とされていることから、この考え方は東アジアに共通した文化と言っているようです。中国には、紀元前17世紀に成立した商王朝の初代の王が、その母親がツバメの卵を食べたために産まれたという言い伝えがあり、日本でもかぐや姫に出てくるツバメの子安貝のように、出産にまつわる伝承があります。人の子供が無事に育つのが難しかった時代に、人家に巣をかけて5羽も6羽もヒナを育てるツバメは、古来から子宝のシンボルとして大事にされていたのかもしれませんが。ただし、韓国ではコシアカツバメは不吉だという考えもあり、巣が壊されてしまうこともあるようです。



図4. 金海市の住宅地にあったコシアカツバメの巣。

### ツバメが少ない？

今回訪問する前から、韓国の先生たちに「ツバメがずいぶん減っている」という話を聞いていたのですが、行ってみたら本当にツバメが少なく、この商店街のほかは、もう一か所、金海市の古い住宅地で営巣を見ただけでした。しっかり調べたわけではなく、車で移動しているときに見ていた限りですが、それ以外の場所ではツバメが飛んでいる姿さえありませんでした。韓国は高層住宅に住む人の比率がとても高く、特に都市部では高層化が進んでいるようで、戸建て住宅はほとんどありません。案内してくれた方の話では、韓国人は広い家に住みたがるので、同じ値段ならば、戸建てよりも高層住宅が好まれるのではないかとことでした。日本のように山を削って戸建て住宅が広がっていることに比べれば、自然保護のためにはいいことなのかもしれませんが、ツバメにとっては営巣場所がかなり少なくなってしまったのかもしれませんが。もちろん、集合住宅の1階が商店になっていたり、地下に駐車場がある場合は、ツバメが営巣するので、よく探せば、もっと見つかる可能性もあります。

### 交流と共同調査に向けて

韓国の先生たちは慶尚南道全体にツバメの調査を呼びかけており、韓国では本当にツバメが少ないのかどうかについて、これから情報が集まってくるでしょう。そしてこの夏休みには、バードリサーチと石川県とが共同して、石川の小学生や先生たちと一緒に慶尚南道の小学校を訪ねる「日韓つばめキャンプ」を計画しています。残念ながらツバメの繁殖が終わっている時期ではあるのですが、ツバメについて調べたことの発表やツバメの巣がある家への訪問など、一緒にキャンプをしながら交流を深めようと思います。さらに来春に向けて、ツバメの初認調査などでも協力を進めていければと考えています。